

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和3年(2021)3月

Vol.
86

CONTENTS

- 1 「こころのケア」シンポジウムを開催
- 2 令和2年度兵庫自治学会研究発表大会を開催
- 3 大阪湾ベイエリア構想分科会
- 4 情報ひろば
- 4~5 HAT神戸掲示板
- 6~8 人と防災未来センターMIRAI

「こころのケア」シンポジウムを開催

兵庫県こころのケアセンターの日頃の研究成果の発表と、「子ども虐待防止に医療ができること」についての講演からなる「こころのケア」シンポジウムを、令和2年11月6日(金)同センターで開催しました。センター開設以来毎年実施しており、17回目を迎えた今回は、新型コロナウイルス感染症対策により、会場での参加を50人に制限する代わりに、オンラインでの参加を募り、合わせて140人の自治体職員や教育・保健・福祉・医療関係の方々に参加していただきました。

開会に当たり、加藤寛センター長が、シンポジウム開催の趣旨を含め、あいさつをしました。



その後、大塚美菜子主任研究員が、「トラウマ体験を有する発達障がい児者への支援」に係る研究報告を行いました。トラウマ体験と発達障がいいずれも有する方々にどのような臨床実践が行われているのかについて、文献レビュー調査、臨床家へのインタビュー調査、当事者へのインタビュー調査を実施し、その結果をもとに現状と課題をまとめて報告しました。

次に、毎原敏郎兵庫県立尼崎総合医療センター小児科科長に、「子ども虐待防止に医療ができること～やられてもやり返せない人への支援～」と題する講演をしていただきました。

この講演では、子どもの虐待はなぜ起こるか、虐待について医療にできること、トラウマについて私たちにできること、の3つを主題として話されました。まず、子どもの虐待はなぜ起こるかについて、毎原先生は、虐待の発生に関する生態学的モデルを示しながら、小児期の逆境的体験が、生涯を通じて心身の健康や幸せに影響すると述べられました。

また、児童虐待と発達障害の関係や、児童虐待による脳の変化、子どもが危険や不快な状態を感じたときに、それを処理するための「アタッチメント行動」などについて解説しながら講演を進められました。また、虐待は遺伝するのか?ということについても考えを述べられました。次に、虐待について医療にできることとして、治療だけではなく、周産期からの予防的な関わり、虐待の早期発見、加害親へのケア・支援のほか、さまざまなことを役割として挙げられました。さらに、1医療機関にとどまらず、地域の医療機関との研修や助言等の実施、児童相談所、警察等医療機関以外との多機関連携の重要性を語られました。最後に、トラウマについて私たちにできることについては、まず、トラウマとは何かということと、心的外傷に関する十分な知識を持って支援する「トラウマインフォームド・ケア」について解説されました。そして、トラウマへの気付きを高める“人-地域-社会”によるケアシステムの構築、地域への普及について述べられました。



今回の講演は、子どもの虐待に関して、医学的分析や医療としてのアプローチとともに、医療だけにとどまらない取り組みによる支援に関する内容で、参加者は非常に興味深く聞き入り、実り多いシンポジウムとなりました。

大阪湾ベイエリア構想分科会 （「広域経済圏活性化による経済成長戦略」）



研究員 平石 知久

1. はじめに

研究戦略センター研究調査部は、人口減少や東京一極集中を是正し、兵庫県経済の活性化に向けて、平成30年度に「広域経済圏活性化による経済成長戦略研究会（政策研究プロジェクトリーダー：加藤恵正兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授）を発足し、調査研究を進めております。

今回ご紹介する「大阪湾ベイエリア構想分科会」は、「大阪湾ベイエリア地域経済分析研究会（（公財）尼崎地域産業活性化機構で平成25年度にスタート）と連携し、令和元年度から「広域経済圏活性化による経済成長戦略研究会」の分科会として調査研究を進めてきました。本分科会は学識経験者、ベイエリアを構成する自治体職員（兵庫県下自治体、大阪府、和歌山県）、民間企業などの有識者によって構成されています。

2. 分科会の目的

現在、大阪湾ベイエリアでは大阪・関西万博（2025年開催予定。来場者数が約2,800万人を想定）開催や、それと相前後して予定されている統合型リゾート（IR）の開業などが計画されており、これまでのラストベルト¹的状況から世界的な一大交流ゾーンへの展望を拓こうとしています。

ベイエリア開発は、平成3（1991）年の「大阪湾ベイエリア開発整備のグランドデザイン」²の策定以降、「大阪湾臨海地域開発整備法（ベイ法）（平成4年施行）のもと、産業、国際、文化、居住、環境等様々な分野でプロジェクトが展開されてきました。

この間、バブル崩壊、阪神・淡路大震災、リーマン・ショック等による経済変動があり、開発整備が停滞しましたが、今日までに当初計画された42の中核的施設のうち70%以上が完成しました。関西国際空港の開港とともに、ベイエリア環状道路網の整備も進みました。

このようにハード面の開発整備は進んだものの、ベイエリアの中核産業であった製造業の稼ぐ力は落ち込んでいます。1990年と2017年を比較すると、製造事業所数、従業者数は、それぞれ67%、46%の減少となっています。製造品出荷額等、粗付加価値額とも、1991年をピークに低下傾向に陥り、近畿圏におけるベイエリアのシェアは、40%台から20%台に低下しました。

こうした状況の打開に向け、Society 5.0³など社会潮流の今後の変化を織り込みつつ、創造都市論、イノベーション論等を敷衍しながら、令和の時代に相応しい新しい都市論を提起していく必要があります。

本分科会は、以上の問題意識に立って「大阪湾ベイエリア開発整備のグランドデザイン」とその関連計画・戦略を現在の視点から再検討し、その成果を次のグランドデザインの検討につなげま

す。あわせて、「未来社会の実験場」をコンセプトとする大阪・関西万博の開催を念頭に、ベイエリアを社会実装のフィールドにするため、具体的な政策提言、事業提案も行うこととしています。

3. これまでの研究活動

これを受けて、本分科会では知識社会、ポスト工業化社会での新たな都市整備のあり方を踏まえた経済活性化政策の企画・立案や、各種事業の推進手法の検討、都市開発による経済的効果など、様々な観点から研究を進めてきました。5回にわたる研究会では大阪湾ベイエリアの地域産業構造と開発推進組織のあり方、同エリアのリノベーションと新たなマネジメントをはじめ、地方における産業集積とそれに伴う地域活性化や、地域資源を活かした地方創生の取り組み事例等について議論を交わしました。今後は研究会での成果を元に、下記の通り報告書にとりまとめていく予定です。

総論 新たな都市論、圏域論の提起

- (1) 検証：グランドデザインの基本理念
- (2) 次世代社会の都市理念、都市構造の検討

各論 都市構造・機能の検討

- 1 「アミューズ・ベイ」の創生：- 世界的な集客・交流ゾーンの形成に向けて -
- 2 「ブレイン・ベイ」の強化：- 特色ある国際的知識創造拠点の形成・ネットワーク化 -
- 3 第二層都市（中核市）群の連担化と郊外再生
- 4 圏域経営 - 推進手法・体制 -
- 5 圏域の経済分析

（なお、上記は本稿執筆時（令和3（2021）年1月）時点での構成であり、最終報告書では変更となる可能性があります。）

4. 大阪湾ベイエリア構想の今後

本分科会の研究活動は今年度で終了しますが、本分科会で得られた成果は、次年度も継続する親部会「広域経済圏活性化による経済成長戦略研究会」に引き継がれる予定です。ベイエリアは関西経済の核心部を形成する広域圏であり、広域経済成長戦略において極めて重要な役割を担うエリアと位置づけています。次年度には、今年度の成果をより精査しつつ、関西広域圏の発展に向けた構想として展開する予定です。

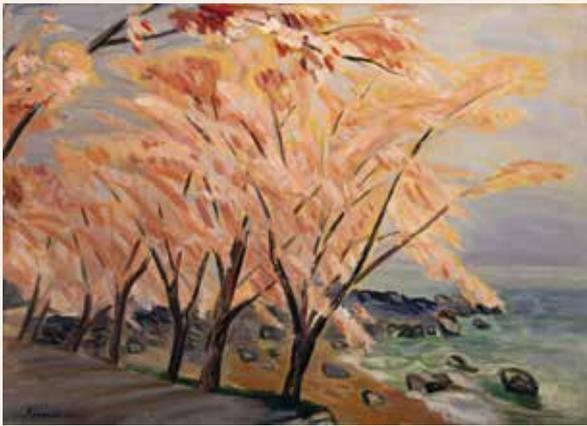
1. 産業構造の高度化によって、鉄鋼業や製造業が衰退した工業地域。
2. 関西・四国の7府県知事、3市長、経済団体代表、学識経験者による産・官・学の組織である「大阪湾ベイエリア開発推進協議会」が策定した大阪湾ベイエリアの開発案。このグランドデザインは、2025年頃を目標に、大阪湾ベイエリアを国際交流、知的・文化的創造、新たな産業の拠点にすることを計画。
3. 産業や社会の問題を解決するため、AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）といった先端技術によって、仮想空間と現実空間が融合した未来社会。

兵庫県立美術館

2021年コレクション展 特集「同級生・同窓生」

兵庫県立美術館では、作品の充実と、それらを積極的に紹介し変化ある常設展示室の演出を心がけるために、2019(令和元)年度より、1年を2回に分けて、それぞれ展示のテーマを設け、横断的にコレクションを紹介しています。

2021(令和3)年第 期では、特集「同級生・同窓生」において、いわゆる官展や団体展に出品された作品を、それぞれの展覧会ごとにまとめて展示します。



国枝金三《さくら》1934(昭和9)年 第21回二科展 兵庫県立美術館蔵

会 期 = 2月13日(土)~7月4日(日)
4月19日(月)~4月23日(金)は展示替えのため休室
観覧料金 = 一般500円、大学生400円、70歳以上250円、
高校生以下無料

休館日 = 月曜日 ただし5月3日(月・祝)開館、5月6日(木)休館
開館時間 = 10時~18時 入場は閉館の30分前まで



飯田操朗《室内》1933(昭和8)年 第3回独立展 兵庫県立美術館蔵

日本赤十字社兵庫県支部

国内外救護活動、医療、献血、ボランティアなど、さまざまな“苦しんでいる人を救う”事業を支える赤十字の事務系職員を、令和4年度4月採用に向けて募集します。



詳しい募集要項は
日本赤十字社兵庫県支部
ホームページをご覧ください。

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/>
問い合わせ
TEL:078-241-9889(総務課)



募集期間: 令和3年4月10日~令和3年5月20日

募集職種: 総合職(事務職)

応募資格:

平成3年4月2日以降に生まれた方で、4年制大学、短期大学、専門学校、高等学校のいずれかを卒業又は令和4年3月卒業見込みの方。ただし高等学校の場合は、既卒者に限る。

普通自動車第一種運転免許を取得している人、もしくは令和4年3月末までに取得見込みの人。

勤務場所: 兵庫県内の赤十字施設

情報誌やwebサイト、ロゴ制作など、
広報戦略・ブランディングの
ご相談を承ります



株式会社 イディー 〒650-0033 兵庫県神戸市中央区江戸町85-1 ベイ・ウイング神戸ビル10F
Tel 078-331-5255 Fax 078-331-7800 E-mail info@idee-kobe.com

イディー 神戸 検索

コミュニティ型ワーキングスペース
「ON PAPER」はじめました!



<https://onpaper.jp>

ONPAPER 検索

令和2年度フォローアップセミナー開催

人と防災未来センターでは、さる2月25日(木)、26日(金)の両日、令和2年度フォローアップセミナーを開催しました。

今回は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、Zoomを活用したオンラインにより、「コロナ禍における防災対策と戦略的広報」というテーマで開催しました。

参加者による「令和元年度・2年度の災害対応・防災事例報告」のほか、「人と防災未来センターの災害対応支援報告」、「人と防災未来センター令和2年度中核的研究プロジェクトに関するワークショップ」、「コロナ禍における防災・災害対応ワークショップ」などを行いました。

参加者は、令和元年度、2年度の災害対策専門研修エキスパートコースA、B、アドバンスコース受講者、サポーター登録者など。防災の中核を担う方々による、防災に関する奥の深い活発な意見交換が展開されました。



フォローアップセミナー(オンライン)

第25回減災報道研究会開催

フォローアップセミナーのカリキュラムのひとつとして、2月25日(木)に、報道関係者、自治体職員、研究者等に加え、フォローアップセミナー参加者による第25回減災報道研究会を開催しました。

当センターでは、これまでから、災害時に連携すべき報道機関と行政機関が、互いに理解し、協力関係を構築しておくことを目的として、減災報道研究会を開催しており、前回までに24回を重ねたところです。

今回は、テーマを「災害時の首長による記者会見のあり方について」として、フォローアップセミナーと同じく、Zoomを活用したオンラインによるワークショップ形式で開催しました。行政、マスコミ(TV、

新聞)研究者、フォローアップセミナー参加者等がそれぞれのグループに分かれ、活発な意見交換が行われました。



減災報道研究会(オンライン)

(公財)ふようご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間	9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)		
	7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで) 金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)		
入館料金	大人	大学生	高校生/小・中学生
	600円(450円)	450円(350円)	無料
[障がい者]			
	大人	大学生	高校生/小・中学生
	150円(100円)	100円(50円)	無料
[70歳以上の高齢者] 300円(200円)			

()は20人以上の団体料金
毎月17日(休館日の場合は翌18日)は入館無料

休館日 毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道 ●阪神電鉄「岩屋」駅、
「春日野道」駅から徒歩約10分
●JR「灘」駅南口から徒歩12分
●阪急電鉄「王子公園」駅
西口から徒歩約20分

バス ●三宮駅前から約15分

車 ●阪神高速道路神戸線
「生田川」ランプから約8分
●阪神高速道路神戸線
「摩耶」ランプから約4分
●阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

有料駐車場あり バス待機所(予約制/無料)あり

